

# 遊馬 PLUS

協力：金沢ホースマンクラブ  
発行：金沢競馬振興協議会  
発行者：遊馬プラス編集部

## 無料

ご自由にお持ちください  
[www.kanazawakeiba.com](http://www.kanazawakeiba.com)

2025年 5月

# vol. 57

※内容見、ご感想をお寄せください  
宛先 E-Mail: [yushun.plus@gmail.com](mailto:yushun.plus@gmail.com)  
<http://sites.google.com/site/yushunplus/>

金沢 I II III IV V 距離馬場タイム



## 来るぞJBC 二〇二六年 JBCが三たび金沢に!

毎年、地方競馬場の持ち回りで行われる当競走が来年の二〇二六年、金沢で開催される事が決まった（JBC二歳優駿は門別）。

金沢での開催は二〇一三年、二〇二一年に続いて三回目。前回から五年振りの開催となる。

前回から五年の間隔での開催は大井を除いた他場での開催状況に比べて短い、能登半島地震からの復興が続く中でその起爆剤の一つとして期待されているようだ。



JBCはレディースクラシック、スプリント、クラシックの三競走が行われそれぞれ距離は前回と変わらず一四〇〇m、一五〇〇m、二一〇〇m。ちなみに、JBCのこの三競走が行われるようになったのは二〇一三年の金沢でのJBCが最初。

中央のG1級の馬が集い、覇を争うハイレベルな舞台。地元金沢は場所を貸すだけか、と思いがだがさにあらず。

二〇一三年のクラシックでは地元金沢の総大将ジャングルスマイルが他場や中央勢を抑えての四着に入る健闘を見せた。また二〇二二年は、船橋のミューチャリーが金沢の吉原博人騎手の手綱で史上初の地方馬によるクラシック制覇。競馬史に大きな足跡を残した。

前回のJBC金沢はコロナ禍で入場制限がかかってこの歴史的な瞬間を現地で体験できなかった人も多い。来年はおそらく制限なく入場して大いに歓声を上げて金沢の馬場を走る馬に声援を送れるだろう。

昨今の地方馬も中央勢に負けない強さを持つようになり、五角以上の走りを見せることも多くなった。一筋縄にはいかない、何かが起きそうなJBC金沢。今からもう楽しみだ。



## KR NEWS



### 加藤騎手地元重賞初勝利

#### お松の方賞

五月十一日、東海・北陸交流の牝馬限定重賞、お松の方賞が行われた。今年も笠松から三頭、愛知から一頭の四頭の遠征馬を地元勢六頭が迎え撃つ構図。一番人気は金沢のリケアマロン。

ゲートが開くとアルカウンが逃げて大外からハリウッドスマイルが追走。リケアマロンは中団の前の方からその後ろに人気勢が前を狙う。



ハリウッドスマイル

Photo by Haruka

向こう正面でハリウッドスマイルが先頭に立つとリケアマロンもポジションを上げて迫る。しかし、最後の直線でも迫るが差は縮まらずハリウッドスマイルが押し切って優勝。鞍上の加藤翔馬騎手はデビュー三年目。今年冬季遠征中の高知で御厨人窟（みくろど）賞を制して重賞初

制覇を果たしたが、今回嬉しい地元重賞初制覇となった。

### 百万石賞の前哨戦で古豪復活

#### 利家盃

四月二十七日、昨年までハクサンアマゾネスが四連覇を果たしていた利家盃が行われた。一番人気は昨年の二冠馬ナミダノキス。

レースは二番人気マリन्दュンデュンが好スタートからハナを主張。ここ二戦後方からの競馬だった三番人気マンガンが中島龍也騎手の出鞭に応じて二番手を追走、ナミダノキスは五番手辺りから前を狙う。

マリन्दュンデュンが軽快に逃げてマンガンが追いかける展開は変わらず。最後の直線に入るとマリन्दュンデュンが先頭を行くも外からマンガンが迫り、交わすと、そのまま一馬身の差をつけてゴール。二着は後続の追撃をクビ差凌いだマリन्दュンデュン。一番人気のナミダノキスは五着に終わった。



マンガン

Photo by miwa



今年上位復活！ 石川優駿

六月の石川優駿の顔ぶれがそろってきた。二歳から鎬を削ってきた者、三歳になって頭角を現してきた者、まさに多士済々と言えそう。

石川優駿のトライアル、一冠目の北日本新聞杯を一番人気で制したのは牡馬のクリノチャールズ。昨秋中央未勝利から金沢に移籍。冬休み中に高知で四戦して金沢に戻ると、中央交流の加賀手取川賞を制して勢いそのままに初重賞を手にした。

金沢では【五三〇〇】とオール連対でまだまだ底は見せていない。昨年のリーディング中島騎手に石川優駿二勝目をプレゼントするか。



クリノチャールズ

北日本新聞杯でクリノチャールズの二着に入ったのが牝馬のショウガマッタナシ。重賞二勝の生え抜きの実績馬で四二〇キロにも満たない小

柄な馬体ながらも先行から押し切る強い勝ちっぷりを見せてきた。二着に敗れたが、前回大敗した一七〇〇m戦での二着で距離延長にはめどがついたか。昨年、石川優駿を制した柴田騎手の同期栗原騎手をその走りで並び立たせる。



ショウガマッタナシ

北日本新聞杯三着に入ったのが九番人気の牝馬エムティバル。今年に入って掲示板を外し続けていたが、一七〇〇mに舞台が変わったこの一戦で一変。これで一七〇〇m戦では二回走って二回とも三着と距離延長が吉と出たようで、血統的にもさらなる距離延長は望むところ。

今回は笠松の筒井騎手の手綱だったが石川優駿でその手綱を誰が握るのかにも注目。

北日本新聞杯で九着のビバロジータ、同じく十着ダンナイの実績馬二騎、金沢移籍後オール連対だったが初重賞のここで七着大敗のタルパンの巻き返しもあるか。また、昨年のナミダノキスのように重賞に顔を出



エムティバル

していない新たな勢力が台頭するか。今年の石川優駿も楽しみみな一戦となりそうだ。

空位の王座に就くのは？ 百万石賞

昨年までハクサンアマゾネスが四連覇していた百万石賞。昨年、彼女が引退して五年振りに新たな百万石賞馬が誕生するが、それは誰になるのか。

ハクサンアマゾネスの引退レース、中日杯で激走を見せてファンにアツと言わせたマリンドュンデュン。初の二〇〇〇m、一五〇〇m以上での実績が乏しい事で距離が不安視されていたが内からの好発でハナを奪うとそのままだも先頭を譲らずハクサンアマゾネスに二馬身差をつけての快勝を見た。今年初戦を快勝し、百万石賞トライアルの利家杯を逃げ粘って二着で

まとめて、中日杯からのパートナー、松戸騎手と共に重賞二勝目を狙う。その利家杯を制したのは八歳古豪のマンガン。南関在籍時は金杯(二六〇〇m)など二〇〇〇m以上のレースで強さを発揮してきた長距離巧者。金沢移籍後二戦は一七〇〇m、一五〇〇mと得意と言えない距離だったがいずれも二着でまとめ、待ちに待った二〇〇〇mの利家盃で本領発揮。直線でマリンドュンデュンを交わすと一馬身つけてゴール。金沢の重賞戦線でまだまだ通用する所を見た。



マリンドュンデュン マンガン

このまま今年の四大競走路線を駆け抜けて年末の中日杯に満貫で上がるためにも負けられない。

昨年の中日杯で二着ハクサンアマゾネスにハナ差迫って三着に入ったのは石川優駿、サラブレッド大賞典二冠馬のナミダノキス。中央未勝利から移籍するやいなや四連勝で石川優駿を制し、中日杯まで六連勝を達

成。出走すれば上がり最速で飛んでくる末脚でライバルを薙ぎ払った。こちらも今年初戦を快勝し、次戦の利家杯では堂々の一番人気に推されるが末脚不発の五着と金沢で初の馬券圏外となった。



ナミダノキス

本番前の一叩きと見るべきなのかもしれない。ここからどう立て直してくるのか。昨年の二冠馬の巻き返しに期待したい。

他にも昨年の百万石賞二着馬で今年の利家杯三着、重賞で安定した末脚を見せて馬券圏内に食い込むダイヤモンドライン、中央でOP勝ちのある実績馬ゴールドハイアー、全日本二歳優駿優勝、みちのく大賞典(二〇〇〇m)も制したヴァケーショの復活もあるか。絶対王者がいなくなった今、金沢の古馬戦線は混戦模様。その混戦が断たれるのか、より混戦が深まるか。今年一年を占う一戦が始まる。